

登録コード	A3595427	開講年度	2026																													
授業科目	専攻研究Ⅱ					担当教員	河原 岳志																									
英文授業名	Thesis ResearchⅡ																															
単位数	5	講義期間	前期（随時）	曜日・時限	集中・不定期		対象学生	4年生																								
講義室				授業形態	演習	遠隔授業科目		備考																								
信大コンピテンシー	該当																															
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素					⇔	【授業の達成目標】																									
	2 0 2 2 Aカリ，2 0 2 1 Aカリ，2 0 2 0 Aカリ，2 0 1 9 Aカリ																															
	【2022年度以前カリキュラム対象】専門的な知識や研究能力を修得している					⇔	専門的な知識や研究能力を修得している。																									
	【2022年度以前カリキュラム対象】地球的な広い国際的視野と同時に現実的な地域の視点に立って問題をとらえ解決する能力を修得している					⇔	地球的な広い国際的視野と同時に現実的な地域の視点に立って問題をとらえ解決する能力を修得している。																									
	2 0 2 6 A3編（24A），2 0 2 5 A3編（23A），2 0 2 4 Aカリ，2 0 2 3 Aカリ																															
	【2024年度以前カリキュラム対象】専門的知識や研究能力を基礎としての確かな情報を収集・理解し、発信できる能力を修得している。					⇔	専門的知識や研究能力を基礎としての確かな情報を収集・理解し、発信できる能力を修得している。																									
	【2024年度以前カリキュラム対象】地球的な広い国際的視野と同時に現実的な地域の視点に立って様々な課題をとらえ、解決する能力を修得している。					⇔	地球的な広い国際的視野と同時に現実的な地域の視点に立って様々な課題をとらえ、解決する能力を修得している。																									
(2)授業で学べる「テーマ」	健康長寿																															
(3)全学横断特別教育プログラム																																
(4)授業の概要	食品の機能性に関する研究に期間を通じて取り組みます。得られた成果については学会発表を行うとともに、最終的に専攻研究論文としてまとめます。																															
(5)授業計画	研究室所属後の一定期間は、研究の遂行に必要なとなる知識や基礎技術の修得に努めます。その後、教員との話し合いにより研究テーマが決定します。 現在、研究テーマとして取り扱っているのは以下のようなものです。 （１）皮膚角化細胞を介して発現する食品の機能性評価 （２）生体の微生物応答を制御する食品の機能性評価 （３）ウイルス感染抑制作用をもつ食品機能性評価 テーマ決定後は、大まかな実験計画に基づいて各自で取り組んでいきます。得られた結果は教員とディスカッションし、確認を行いながら目標の達成に向けて取り組んでいきます。																															
(6)自主学習の指針	実験を行うための知識や基礎技術の修得には、個人差はありますがかなりの時間が必要です。研究遂行に関して自主性を重んじているため、日々の活動は各自のペースとなりますが、研究の達成は努力なくしてありえないことを肝に銘じてください。																															
(7)成績評価の基準	成績の評価基準は以下の通りです。 卒論発表に必要最小限の課題をこなす。 → 「水準にある」 卒論発表で求められる十分量の課題をこなす。 → 「やや上にある」 卒論発表で求められる量を上回る課題をこなす。 → 「かなり上にある」 卒論発表以外の学会や論文発表など公の場で成果発表を行う、またはそれに相当する精度の研究課題をこなす。 → 「卓越している」 正当なディスカッションを経て得られた研究結果の責任は教員にあります。得られた結果が当初のテーマの方向性にとって望ましい結果かそうでなかったかは、評価には一切関係しません。																															
(8)事前事後学習の内容	専攻研究は個人個人がそれぞれ未知のテーマに一年半をかけて取り組むもので、結果が約束されている学生実験とは根本的に異なる難易度の高い最終講義です。専攻研究の結果が芳しくなかった場合に学生はその責任を負う必要は一切ありませんが、学術的に意味がある結果を得るためには日々の実験について十分な予習をし、また実験を失敗した理由を考える際には事後学習が欠かせません。																															
(9)テストやレポートの予定	テストやレポートという形式は取っていませんが、実験結果のデータを提出するのもプレゼンテーション能力を養うためのトレーニングだと考えてください。																															
(10)成績評価の方法	研究期間を通じて積極性と実績（出欠や教員とのディスカッション能力、研究の遂行と専攻研究論文の作成能力、質問への返答能力、実施内容を証明する実験ノートの記述・提出状況）を点数化し、以下の基準に基づき5段階評価を行います。 <table><tr><td>評価基準：</td><td>評語</td><td>略号</td><td>点数</td></tr><tr><td></td><td>秀</td><td>S</td><td>90-100</td></tr><tr><td></td><td>優</td><td>A</td><td>80-89</td></tr><tr><td></td><td>良</td><td>B</td><td>70-79</td></tr><tr><td></td><td>可</td><td>C</td><td>60-69</td></tr><tr><td></td><td>不可</td><td>D</td><td>59以下</td></tr></table>								評価基準：	評語	略号	点数		秀	S	90-100		優	A	80-89		良	B	70-79		可	C	60-69		不可	D	59以下
評価基準：	評語	略号	点数																													
	秀	S	90-100																													
	優	A	80-89																													
	良	B	70-79																													
	可	C	60-69																													
	不可	D	59以下																													

(11)質問、相談への対応および連絡先	担当教員の居室（C406）で随時応じます。
(12)履修上の注意	本講義は他の講義と異なり，期間中は各個人が実験スケジュールを組み立てて実験を行います。自由度の高い取り組みが可能です，自己管理が強く求められます。 また研究の遂行に当たっては，学生と教員との間のディスカッションを行いながら進めていく課程を重視しますので，単に実験だけ行っていればいいというわけではありません。
【教科書】	特にありません。
【参考書】	基本的に研究テーマに応じて必要な書籍を図書館やインターネットを活用して探します。研究遂行のうえで重要度な内容を含むものに関しては，教員から提供します。